



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 東北新社
コード番号 2329 URL <https://www.tfc.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小坂 恵一
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 土藤 敏治 TEL 03-5414-0211
四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年3月期第2四半期 | 25,607 | 7.5 | 2,110 | 66.7 | 2,399 | 8.7 | 1,291 | △1.1 |
| 2022年3月期第2四半期 | 23,819 | 2.0 | 1,265 | 249.0 | 2,207 | 259.7 | 1,306 | 513.9 |

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,081百万円 (37.0%) 2022年3月期第2四半期 1,519百万円 (33.2%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期第2四半期 | 28.74 | — |
| 2022年3月期第2四半期 | 29.07 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2023年3月期第2四半期 | 93,820 | 75,574 | 79.8 |
| 2022年3月期 | 96,249 | 74,365 | 76.6 |

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 74,842百万円 2022年3月期 73,713百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期 | — | 0.00 | — | 19.00 | 19.00 |
| 2023年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2023年3月期（予想） | — | — | — | 17.00 | 17.00 |

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|-------|------|-------|-------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 57,514 | 9.0 | 4,076 | △1.4 | 4,482 | △18.6 | 2,823 | △8.0 | 62.81 |

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2023年3月期2Q | 46,735,334株 | 2022年3月期 | 46,735,334株 |
| ② 期末自己株式数 | 2023年3月期2Q | 1,786,847株 | 2022年3月期 | 1,786,847株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2023年3月期2Q | 44,948,487株 | 2022年3月期2Q | 44,948,487株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (四半期連結損益計算書) | 6 |
| (四半期連結包括利益計算書) | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更) | 9 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 9 |
| (会計方針の変更) | 9 |
| (セグメント情報等) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高25,607百万円（前年同期比7.5%増）、営業利益2,110百万円（前年同期比66.7%増）、経常利益2,399百万円（前年同期比8.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,291百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① 広告プロダクション

広告プロダクションの売上高は、前年同期に比べ12.8%増の10,850百万円となり、営業利益は前年同期に比べ8.7%減の647百万円となりました。2021年12月に株式取得により連結子会社化した株式会社ENJINの業績を第1四半期から取り込んだことにより、増収となりましたが、利益に関しては、CM制作部門において、子会社のオフィス移転費用の発生や映像制作における新たなワークフロー等(メタバースプロダクション)の技術開発費用の計上等により減益となりました。

② コンテンツプロダクション

コンテンツプロダクションの売上高は、前年同期に比べ2.3%増の5,933百万円となり、営業利益は前年同期に比べ88.9%増の481百万円となりました。音響字幕制作部門において、動画配信サービス会社やゲーム会社からの受注が増加しました。また、デジタルプロダクション部門におけるコスト削減等も寄与し、増収増益となりました。

③ メディア

メディアの売上高は、前年同期に比べ5.2%増の6,757百万円となり、営業利益は前年同期に比べ103.5%増の1,290百万円となりました。関連チャンネル子会社の株式会社ファミリー劇場の決算期を12月から3月に変更したことに伴い、当第2四半期は当該会社の9ヶ月間の業績を取り込んでいることや、関連チャンネル子会社の株式会社スター・チャンネルにおいて、前年同期は放映権の契約見直しに伴う費用処理がありました。当第2四半期はその費用処理がなかったこと等により、増収増益となりました。

④ プロパティ

プロパティの売上高は、前年同期に比べ15.2%増の1,675百万円となり、営業利益は593百万円（前年同期は163百万円の営業損失）となりました。TV放映権の販売が前年同期より上回ったことにより増収となりました。利益に関しては、増収に加え、放映権の償却費が減少したことや当社が出資した劇場用映画「死刑にいたる病」がヒットしたこともあり、増益となりました。

⑤ 物販

物販の売上高は、前年同期に比べ5.7%減の2,493百万円となり、営業損失は22百万円（前年同期は35百万円の営業利益）となりました。スーパー部門において、巣籠り消費の薄れによる売上減少が影響し、減収減益となりました。

(注) 上記セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んだ金額を記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、93,820百万円であり、前連結会計年度末に比べ2,428百万円減少いたしました。この主な要因は、現金及び預金の増加1,919百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少5,351百万円、仕掛品の増加1,338百万円等であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、18,246百万円であり、前連結会計年度末に比べ3,637百万円減少いたしました。この主な要因は、買掛金の減少2,965百万円等であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、75,574百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,208百万円増加いたしました。この主な要因は、為替換算調整勘定の増加1,388百万円等であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,567百万円増加し34,604百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、3,011百万円（前年同期は4,183百万円の増加）となりました。これは、仕入債務の減少2,965百万円等による資金の減少があったものの、売上債権の減少5,356百万円等による資金の増加があった結果であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、694百万円（前年同期は158百万円の減少）となりました。これは、定期預金の払戻による収入2,371百万円等による資金の増加があったものの、有形固定資産の取得による支出573百万円及び定期預金の預入による支出2,406百万円等による資金の減少があった結果であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、967百万円（前年同期は510百万円の減少）となりました。これは、配当金の支払854百万円等による資金の減少があった結果であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の見通しですが、下期は関連チャンネル子会社の株式会社ザ・シネマの株式譲渡に伴う連結からの除外の影響等もありますが、当第2四半期まで業績は概ね順調に進捗しておりますので、2022年8月10日に発表済の2023年3月期の業績予想を据え置きます。

なお、業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づいて作成しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 35,024 | 36,943 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 15,878 | 10,527 |
| 有価証券 | 71 | 108 |
| 映像使用権 | 3,347 | 2,610 |
| 仕掛品 | 2,873 | 4,211 |
| その他の棚卸資産 | 466 | 478 |
| その他 | 1,215 | 1,367 |
| 貸倒引当金 | △25 | △24 |
| 流動資産合計 | 58,850 | 56,222 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 13,397 | 13,513 |
| その他(純額) | 5,953 | 6,380 |
| 有形固定資産合計 | 19,351 | 19,893 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 1,690 | 1,605 |
| 顧客関連資産 | 1,047 | 995 |
| その他 | 600 | 483 |
| 無形固定資産合計 | 3,338 | 3,084 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 11,254 | 10,356 |
| その他 | 3,669 | 4,484 |
| 貸倒引当金 | △214 | △222 |
| 投資その他の資産合計 | 14,708 | 14,618 |
| 固定資産合計 | 37,398 | 37,597 |
| 資産合計 | 96,249 | 93,820 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 11,018 | 8,052 |
| 短期借入金 | 929 | 1,129 |
| 未払法人税等 | 823 | 847 |
| 賞与引当金 | 814 | 673 |
| その他 | 2,855 | 2,660 |
| 流動負債合計 | 16,441 | 13,362 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 669 | 497 |
| 役員退職慰労引当金 | 437 | 313 |
| 退職給付に係る負債 | 2,076 | 1,968 |
| その他 | 2,258 | 2,103 |
| 固定負債合計 | 5,442 | 4,883 |
| 負債合計 | 21,883 | 18,246 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,487 | 2,487 |
| 資本剰余金 | 3,588 | 3,588 |
| 利益剰余金 | 66,207 | 66,645 |
| 自己株式 | △1,728 | △1,728 |
| 株主資本合計 | 70,554 | 70,992 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 3,107 | 2,424 |
| 為替換算調整勘定 | △72 | 1,316 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 123 | 109 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,158 | 3,849 |
| 非支配株主持分 | 652 | 731 |
| 純資産合計 | 74,365 | 75,574 |
| 負債純資産合計 | 96,249 | 93,820 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 23,819 | 25,607 |
| 売上原価 | 17,509 | 17,727 |
| 売上総利益 | 6,309 | 7,879 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,044 | 5,769 |
| 営業利益 | 1,265 | 2,110 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4 | 7 |
| 受取配当金 | 52 | 62 |
| 持分法による投資利益 | 71 | — |
| 出資金運用益 | 771 | 320 |
| 経営指導料 | 54 | 54 |
| 受取家賃 | 55 | 116 |
| その他 | 27 | 26 |
| 営業外収益合計 | 1,037 | 587 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 5 | 8 |
| 持分法による投資損失 | — | 73 |
| 為替差損 | 44 | 153 |
| 不動産賃貸原価 | 27 | 46 |
| 支払手数料 | 12 | 12 |
| その他 | 5 | 4 |
| 営業外費用合計 | 95 | 298 |
| 経常利益 | 2,207 | 2,399 |
| 特別損失 | | |
| ゴルフ会員権解約損 | 13 | — |
| 特別損失合計 | 13 | — |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,194 | 2,399 |
| 法人税等 | 829 | 1,009 |
| 四半期純利益 | 1,364 | 1,389 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 57 | 98 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,306 | 1,291 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 1,364 | 1,389 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △272 | △683 |
| 為替換算調整勘定 | 397 | 1,355 |
| 退職給付に係る調整額 | 18 | △13 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 10 | 32 |
| その他の包括利益合計 | 154 | 691 |
| 四半期包括利益 | 1,519 | 2,081 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,461 | 1,983 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 57 | 98 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,194 | 2,399 |
| 減価償却費 | 580 | 603 |
| のれん償却額 | — | 84 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △0 | 6 |
| 受取利息及び受取配当金 | △57 | △69 |
| 支払利息 | 5 | 8 |
| 持分法による投資損益(△は益) | △71 | 73 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 4,619 | 5,356 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | 1,003 | △613 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △1,470 | △2,965 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △136 | △141 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | 28 | △124 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | △101 | △108 |
| 退職給付に係る資産の増減額(△は増加) | — | 1 |
| 出資金運用損益(△は益) | △771 | △320 |
| 前受金の増減額(△は減少) | 53 | 503 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | △57 | △9 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △134 | △266 |
| 繰延消費税等の増減額(△は増加) | △19 | 56 |
| その他 | △963 | △667 |
| 小計 | 4,702 | 3,807 |
| 利息及び配当金の受取額 | 80 | 89 |
| 利息の支払額 | △5 | △9 |
| 法人税等の支払額 | △631 | △878 |
| 法人税等の還付額 | 37 | 1 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,183 | 3,011 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △220 | △573 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △0 | △60 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △50 | △12 |
| 定期預金の預入による支出 | △1,970 | △2,406 |
| 定期預金の払戻による収入 | 1,989 | 2,371 |
| その他 | 94 | △13 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △158 | △694 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | 150 | 200 |
| 長期借入金の返済による支出 | — | △171 |
| 配当金の支払額 | △494 | △854 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △20 | △18 |
| リース債務の返済による支出 | △140 | △117 |
| その他 | △5 | △5 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △510 | △967 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 74 | 217 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 3,590 | 1,567 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 30,866 | 33,037 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 34,456 | 34,604 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、連結子会社のうち決算日が12月31日であった、株式会社ファミリー劇場は同日現在の財務諸表を利用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について必要な調整を行っていましたが、第1四半期連結会計期間より決算日を3月31日に変更しております。

この決算期変更に伴い、当第2四半期連結累計期間において、2022年1月1日から2022年9月30日までの9ヶ月間を連結しております。

なお、決算期変更した株式会社ファミリー劇場の2022年1月1日から2022年3月31日までの売上高は598百万円、経常利益は90百万円、税引前四半期純利益は90百万円であります。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------------|------------------|-------|-------|-------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 広告 プロダクション | コンテンツ プロダクション | メディア | プロパティ | 物販 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 9,526 | 4,112 | 6,334 | 1,282 | 2,563 | 23,819 | — | 23,819 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 95 | 1,688 | 88 | 172 | 80 | 2,125 | △2,125 | — |
| 計 | 9,621 | 5,800 | 6,423 | 1,454 | 2,643 | 25,944 | △2,125 | 23,819 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 709 | 255 | 634 | △163 | 35 | 1,470 | △204 | 1,265 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△204百万円には、セグメント間取引消去310百万円、不動産関連費用の調整額(近隣の賃貸相場を参考に設定した標準賃貸単価をもとに算定した標準価額と実際発生額との差額)829百万円及び全社費用△1,344百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------------|------------------|-------|-------|-------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 広告 プロダクション | コンテンツ プロダクション | メディア | プロパティ | 物販 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,779 | 4,622 | 6,657 | 1,128 | 2,419 | 25,607 | — | 25,607 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 71 | 1,310 | 100 | 547 | 73 | 2,103 | △2,103 | — |
| 計 | 10,850 | 5,933 | 6,757 | 1,675 | 2,493 | 27,711 | △2,103 | 25,607 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 647 | 481 | 1,290 | 593 | △22 | 2,991 | △880 | 2,110 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△880百万円には、セグメント間取引消去△37百万円、不動産関連費用の調整額(近隣の賃貸相場を参考に設定した標準賃貸単価をもとに算定した標準価額と実際発生額との差額)713百万円及び全社費用△1,556百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。